

令和4年度

府中市教育委員会点検・評価報告書

【令和3年度事業対象・ダイジェスト版】



アニメーター 安藤雅司氏による

原画 《タイトル》

9年間の学習成長
～1年ごとの満喫～

府中市教育委員会

I 府中市教育委員会における点検・評価の取組について

- 1 事務事業評価は、事業を実施している所管課が事務事業の現状を把握し、認識した上で、目的を達成するために解決すべき課題を発見し、具体的な改善につなげていく取組みです。

事務事業評価制度を導入することにより、事業所管課が事業の成果を組織的、定期的及び客観的に見直し、データに基づく改革・改善を行いやすくなるという効果が期待できます。

- 2 点検・評価の対象となる事業

第5次府中市長期総合計画の事業で、教育委員会の主要な事業を対象として行った事業について点検・評価の対象とします。

- 3 対象となる期間

令和3年度とします。

- 4 点検・評価の実施方法

- (1)教育委員会における点検・評価

事業の担当課が自己評価する1次評価と教育委員会全体として総合的に評価する2次評価の2段階で実施します。

- (2)学識経験を有する者の知見の活用

評価の客観性を確保するため、外部の有識者による評価を行います。

学識経験を有する者として、前府中市PTA連合会会長 小野哲生氏に御意見をいただきます。

- 5 評価方法

事業の執行結果について、活動指標、成果指標、事業コストを用いて「目的妥当性」、「有効性」、「効率性」及び「公平性」の観点から評価を行います。

II 教育委員会の活動状況

i 教育委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で教育、学術及び文化に関し識見を有するもののうちから、市長が市議会の同意を得て任命した5人の教育委員により構成されています。平成27年4月1日施行の「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正により教育委員会制度の抜本的な改革が行われ、平成27年10月1日に教育委員長と教育長を一本化した新教育長を設置し、活動しています。

令和4年3月31日現在

職名	氏名	任期	
教育長	荻野雅裕	令和3年10月3日～ 令和6年10月2日	1期目
教育長職務代理	高橋良昌	令和2年12月19日～ 令和6年12月18日	2期目
委員	和知啓子	令和3年10月1日～ 令和7年9月30日	2期目
委員	松尾紀美	平成30年12月19日～ 令和4年12月18日	1期目
委員	藤井美砂緒	令和元年7月3日～ 令和5年7月2日	1期目

ii 教育委員会の開催状況について

定例会、臨時会など、令和3年度は17回の教育委員会会議を開催し、38議案について審議しました。

Ⅲ 事務事業の点検・評価の結果

[結果一覧表]

i 教育政策課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
放課後児童クラブ・放課後子供教室それぞれの充実と連携	現状維持	現状維持	
天領あやめ塾(高校生に対する学習支援)	現状維持	現状維持	
地産地消の取組	現状維持	現状維持	
天領あやめ塾(地域魅力づくりコース)	事業改善	事業改善	
公民館の利活用推進	現状維持	現状維持	
歴史的価値を持つ建物の観光活用に向けた整備	目的拡大	目的拡大	
歴史的財産保存活用事業【備後国府跡】	目的拡大	目的拡大	
ICTを活用した生涯学習活動への展開	現状維持	現状維持	

ii 学校教育課関係

事業名	1次評価	2次評価	備考
府中市版「教育課程の特例カリキュラム」の作成・実施	事業改善	事業改善	
学校内軽食ブース設置等学びの環境整備	事業改善	事業改善	
特別支援教育・教育支援員の充実	事業改善	事業改善	
コミュニティ・スクールの推進	事業改善	事業改善	
小中一貫教育	事業改善	事業改善	
GIGA スクールネットワーク推進	事業改善	事業改善	
プログラミング教育の推進	事業改善	事業改善	

iii 外部有識者による評価

新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な活動が制限され、オンライン学習をはじめとする授業形態の変化や新しい生活様式に合わせた環境の変化など教育行政また子どもたちの学校生活は大きな影響を受け、学校・家庭・地域における取組、交流などの形について見直しを余儀なくされました。そういった状況の中においても、いろいろなやり方を模索し、新たなやり方での取組も進めてきました。また、ICT環境の整備が進み、ICT機器を活用した取組が広がる機会となり、学校、家庭、地域が集いともに関わりあいながら学び成長する価値を再認識する契機ともなりました。さらに教育内容が豊かになるよう今後の発展を期待するものです。

1 学校教育の充実

府中市の教育は、小中一貫教育とコミュニティ・スクールを主な教育の柱としてそれに関係した事業を取り組んできている中、「教育課程の特例カリキュラム」、「GIGAスクールネットワーク推進」が取り組まれました。

GIGAスクールネットワークの推進について一人一台のタブレット端末が配布され、ICT機器を活用し、災害時やウイズコロナ、又不登校児童・生徒の家庭学習を実施し、一人も取り残さない教育の取組を期待します。

教育課程の特例カリキュラムは、学校教育の充実に向けての研修、研究の充実、教育課題や方向性を明確にするため教育課程研究センターを設置し、取組が進んでいます。また全ての学習の基盤となることばの力を子供たちにしっかり身に付けさせ、可能性とチャンスを広げていくため教育課程の特例を市内全校に適用させた「ことば探究科」が新たに開設されました。引き続き推進していく上での課題を明確にして、内容の充実に向けた取組を期待します。

また、コミュニティ・スクールについては、学校ごとの特色・個性があり、一歩一歩前に進んでいると思います。コロナウイルスの影響でCSエクスカージョンの開催が困難になりましたが、次年度以降、CSエクスカージョンを開催していただき保護者・地域・先生の気持ちを今まで以上に高め、郷土愛溢れる・府中を自慢できる子どもたちを見守り、育ててほしいと願います。

今の子どもたちは習い事・家庭学習等忙しい子どもたちが多く、「早寝・早起き・朝ご飯」の環境が整いにくい時代と思います。そのような中で学校内の軽食ブースについて朝食の大切さを知ってもらい自ら「早寝・早起き・朝ご飯」を実施できるようにしてもらえよう期待し、又保護者への発信をPTA連合会と連携して進めて頂きたいと思います。

2 生涯学習の推進

地域における教育の充実には、公民館が大きな役割を担っています。公民館等社会教育施設のICT環境整備が行なわれました。今後ICTを使った講座を実施するなど各地域で新たな社会教育・生涯学習活動を通して、多くの人々が、世

代を超えて学びあい、ひとづくり、地域づくりを進めることが必要です。地域と公民館がつながり、各世代の皆さんが主体的に参加したいと思える活動づくりや活動情報の発信が充実することを期待します。

3 その他

学校教育・生涯学習ともに一歩ずつ前に進み、充実した環境も整い、評価すべきものと思います。これからの時代、変化対応型でウイズコロナを念頭に新しい環境・設備等を積極的に取り入れ、スピード感を持って各事業の充実が図られることを期待します。

IV まとめ

令和2年度につづき、教育行政、教育現場は、新型コロナウイルス感染拡大による影響を大きく受けることとなったが、新しい生活様式に合わせた環境の変化、ソーシャルディスタンスを考慮した新しい対人関係など様々な対応の見直しが必要になった中においても、小中一貫教育、コミュニティスクールを中心に創意工夫し、より一層充実した取組を進めている。

令和3年度の評価については、第5次府中市長期総合計画の事業で、教育委員会の主要な15事業について点検・評価を行い、継続しつつ、実施事業をより発展させるべく業務改善の評価が多くみられた。

社会が急速に変化し、価値観も大きく変わってきている中だからこそ、何ができるのか、何が必要なのかを考え、子供たちによりよい教育環境を提供し続け、府中市の教育の充実に向けた機能や研修の強化を図るとともに、課題や方向性を明確にし、一歩先を見据えた積極的な取組を教育委員会が一つとなり、まい進していきたい。